

**PTA** **しんぶん**  
2013年5月 **特集号**

# 京都市の教育と PTA活動



京都市 PTA 連絡協議会は「教育懇談会」をはじめ、色々な場面で京都市教育委員会と話し合いの場を設け、PTA ならではの「市民目線」「市民感覚」の声を届けています。今後も、子どもたちが健やかに成長できる環境づくりをより効果的に進めるためには、私たち PTA が京都市の取組をより深く知り、教育委員会や学校と忌憚のない意見を交わし合うことが大切と考えています。

そのため、今回の PTA しんぶんでは、全国的に大きな問題となっている教育課題に関する Q&A 特集を組みました。PTA の皆さんには、京都市の教育に理解を深めていただくとともに、今年度、始まったばかりの PTA 活動に活かしていただきたいと思ひます。

## 子どもたちの命を守る取組はどうなっているの？

私たち PTA は「子どもを共に育む京都市民憲章」の理念のもと、子どもたちの今と未来のために様々な取組を進めています。先日の憲法月間に合わせた人権パレードでは、家庭、地域、学校の全ての大人が「体罰は決して許されない」という考えの下、しっかりと連携することの大切さを「体罰の根絶に向けたアピール」として発信しました。

しかし、体罰だけでなく「いじめ」や集団登校中の大事故など、子どもたちのかけがえのない「いのち」が傷つけられる事案が後を絶ちません。

**A** 京都市でも平成24年7月、小学校のプールで子どもの命が失われる大変痛ましい事故がありました。子どもたちにとって安全であるべき学校において、二度と事故を発生させないよう、京都市では**外部の専門家の監修の下、「水泳指導の手引」と「水泳指導における安全管理指針」を策定し、全市立小学校教員に配布しました。**さらに、指針等に基づく研修会の開催や各校の水泳指導計画の点検・指導など、水泳指導の安全管理を徹底しています。

また、昨年度、府内で相次いで発生した歩行者を巻き込む交通事故を受け、京都市では、全市立小学校の通学路を対象に実施した緊急総点検の結果を受け、**8月までに2380カ所で路面標示の補修など緊急の第1次対策を完了し、さらに、6億8千万円の補正予算を計上し、年度末にかけて小学校周辺の通学路の路側部や交差点のカラー化をはじめとする第2次対策を実施**しています。

各小学校においても、交通安全指導の徹底や保護者・地域と連携した見守り活動の充実などに取り組んでいます。

**A** いじめの問題に関しても、「見逃しのない観察」「手遅れのない対応」「心の通った指導」を基本に、アンケート調査や個別面談でいじめの兆候をいち早く把握し、迅速かつ組織的な対応を徹底しています。平成24年8月の「京都市中学校生徒会サミット」では、全市から参集した代表生徒17名が、教育長や京都市 PTA 連絡協議会会長、校長会長等の大人とも協議し、「いじめは、しない！ 許さない！ 許されない！ ～かけがえのない命が世界で一番大切！～」と宣言しました。教育委員会としてもこの宣言を広く周知し、いじめは絶対に許されないという意識を子どもたち一人一人に醸成しています。



子ども安全見守り隊活動の様子

路側部をカラー化した通学路

そして、学校とともに、PTAの皆様をはじめ、家庭や地域、企業、NPOなど子どもに係わる大人が一緒になって、地域ぐるみ、市民ぐるみで進めてこそ大きな効果があると考えています。

また、他府県において運動部活動での体罰を苦として、高校生が自らの命を絶つ痛ましい事案が発生し、体罰が大きな社会問題となりました。京都市でも緊急対策として、平成25年3月4日にすべての教職員が自らの指導の在り方を振り返るため、「体罰根絶に向けた教員研修会」を全校悉皆で実施。さらに「体罰根絶のためのチェックシート」を作成・配付し、体罰を容認する意識を学校現場から一掃する取組を進めるなど、すべての教職員が子どもの「命を守りきる」学校体制を築くとともに、子ども自身が命を大切にできる教育活動の実践に取り組んでいます。



京都市中学校生徒会サミットでも宣言

## 土曜日の活用は？

最近、「土曜授業が行われる」というニュースをよく見聞しますが、京都市でも土曜日に授業が行われるのですか？

**A** 京都市では、足りない授業を補うためのいわゆる「土曜授業」は行っていませんが、平成4年に学校週5日制が始まった当時から、全国に先駆けて、学校・家庭・地域の連携により学校の休業日を有意義に活用し、子どもたちの「学び」をはぐくむための様々な取組を進めています。特に、指定校数が全国最多の学校運営協議会や、保護者、地域、学生ボランティアなどの参画のもとで、基礎学力の定着や学習習慣の確立を目指した学習活動、自然、伝統文化、郷土探究などの豊かな体験活動を行う、当時、**全国でも類を見ない取組—創意工夫あふれる学びの場「土曜学習」を平成20年度から展開し、現在は全小中学校で行われています。**

また、土曜日だけでなく、放課後においても子どもたちの「自主的な学びの場」と「安心・安全な居場所」の充実を目指し、学校運営協議会や保護者、地域、学生などの支援により、余剰教室や図書室等の学校施設を活用した「放課後まなび教室」を**全小中学校区で実施**。子どもたちが宿題、予習復習、読書などのほか文化活動にも取り組んでいます。

今後も京都市が誇る学校・家庭・地域相互の強い連携のもとで、土・日の休業日をはじめ学校以外でも子どもたちが有意義に過ごし「学び」をはぐくんでいくことのできる、京都市ならではの「地域ぐるみの教育」の輪を一層広げていきます。



# 少人数学級って進んでるの?



少人数学級

諸外国と比較しても、日本の学校は1学級あたりの児童・生徒数が多いといわれています。障害のある子ども等、特別な支援を必要とする子どもたちが増加するとともに、いじめや不登校などの問題が深刻な社会問題となる中、子どもたち一人一人へのきめ細かな指導が強く求められています。



本市では、PTAの皆様をはじめとしたご要望を受け、小学校教育への円滑な接続を図るため、構造改革特区を活用し、平成15年度に京都市独自予算で、小学校1年生の35人学級を導入しました。

(市町村主体での実施は全国初)

さらに翌16年度には小学校2年生に拡大するとともに、19年度には、よりきめ細やかな学習指導・進路指導を行うため、中学校3年生に30人学級を導入しています。(25年度予算 6億4,140万円 小2と中3の合計)

こうした本市の取組と軌を一にして、国においても、平成23年度に小学校1年生の35人学級を実現したところで、

現在、本市の35人以下学級の割合は政令市の中でトップクラスとなるとともに、教員1人あたりの児童生徒数については政令市で最小です。

	小学校	中学校
京都市(2011)	16.7人	13.9人
指定都市平均(2011)	19.0人	15.9人
全国(2009)	18.6人	14.5人

(教員1人あたりの児童・生徒数)

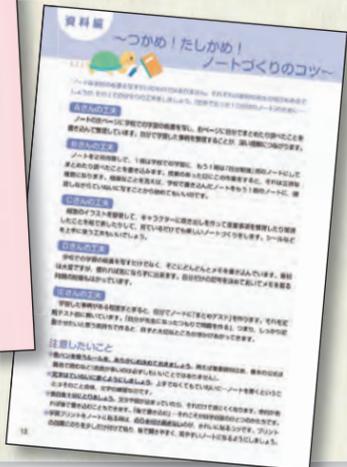


# 学力向上に向けた取組は?

子どもたちの学力向上は、学校教育における大きな目標の一つであり、PTAとしても高い関心を寄せています。学力向上に向けた京都市の主な取組について教えてください。



小中学校入学時に配付される冊子「自学自習のすすめ」



「確かな学力」は、「豊かな心」「健やかな体」と密接に関連しており、三者それぞれの視点が有機的に結びついて初めて子どもに「生きる力」を育成することができます。

本市では、その「確かな学力」の向上を図るため、子どもたちが定期的な確認テストと予復習教材によって、学校での学習内容を計画的に総復習できる「京都市学習支援プログラム」を実施しています。

このプログラムは、家庭における自学自習の習慣化を図り、身につけるべき基礎的・基本的な学習の確実な定着を目指しています。また、本プログラムをはじめ、毎年4月に国が実施する「全国学力・学習状況調査」(小6年、中3年)等を通じて明らかとなった子どもたちの課題を小・中学校間で共有し、義務教育9年間を通じた指導方法の工夫・改善にも活かしています。

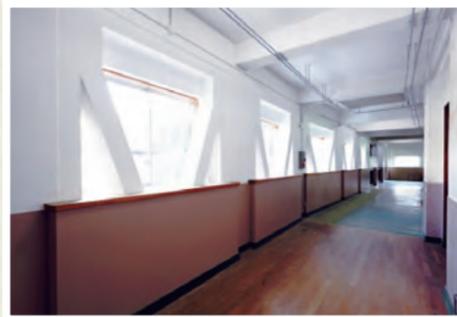
小中学校入学時に配布される冊子「自学自習のすすめ」(京都市教育委員会発行)にも、学力向上を図る上で大切な家庭学習のヒントをわかりやすくまとめています。子どもたちと一緒に、是非ご一読ください。

## 京都市学習支援プログラム

名称(開始年度)	学年	実施回数	(合計)	実施教科等
プレジョイントプログラム(平成23年度～)	小3	1	2	国語、社会、算数、理科
	小4	1		
ジョイントプログラム(平成20年度～)	小5	2	5	国語、社会、算数、理科 * 5回中3回は国・算で実施 * 小6の最終回は中学入学直後に確認テスト実施
	小6	3		
学習確認プログラム(平成18年度～)	中1	1	6	国語、社会、数学、理科、英語
	中2	3		
	中3	2		

# 学校の耐震化や避難所としての機能は?

2年前の東日本大震災をはじめ、先日も淡路島で大きな地震が発生するなど、日本は、地震が非常に多い国です。京都もいつ何時、大きな地震に見舞われるかわかりません。



鉄骨ブレース接合工法による耐震補強(近衛中)



アウトフレーム工法による耐震補強(鏡山小)



京都市の学校の校舎・体育館については、平成15年度から8カ年計画で約150億円の予算を投入し、耐震補強を行ってきました。平成23年度末をもって、特別な事情を有する学校を除いたすべての学校で校舎・体育館の耐震化を完了しています。

また、学校は大災害が発生した際の避難所としての役割も果たします。今後は、老朽化し、一定の面積を有する小中学校の体育館について、壁や屋根

などの断熱化、蓄電池付太陽光発電システムなど防災機能強化も含めた全面リニューアルを順次行っていきます。

小中学校のプールについても、災害時にトイレ用水等を確保できるよう、コンクリート製の水槽から水漏れのしにくい強化プラスチック(FRP)製やステンレス製の水槽への入替え、配管等の耐震化も含めた全面リニューアルを行っていきます。

## お知らせ

PTAの皆様にもっと京都市の教育を知ってもらうため、今回の特集号だけでなく、毎号のPTAしんぶんにおいても特集記事を掲載していきます。取り上げてほしい内容やくわしく知りたい取組などがございましたら、京都市PTA連絡協議会事務局(TEL: 801-4796)までお知らせください。